

広島アートプロジェクト 2008 二つの流れが交錯する場

報告：柳幸典

広島アートプロジェクトが産声を上げた2007年の企画「旧中工場アートプロジェクト」では、広島都市軸を念頭に都市の遊休施設（旧日本銀行広島支店と旧ゴミ焼却施設）のアートによる再利用の提案として、「貨幣とゴミ」を対比させ企画の立案をした。

2年目となる広島アートプロジェクト2008の本企画では、広島風の風土と人の移動の歴史に焦点を当てたと言ってよいだろう。2008年は日系ブラジル移民100周年の年で、広島県はもっとも多くの移民を送り出した県であったことが企画着想の基層にある。広島と海の関係はその地勢からも窺い知れる。背後を山に囲まれ瀬戸内海に面し平野が少なく、多くの島々を有する広島の風景は特徴的である。わずかにある平地は数本の川により山から運ばれてきた土砂が堆積してできた中州を、人が長い時間をかけて埋め立てながら海へと広げてきたものだ。そして眼前の揺りかごのように穏やかな海は海峡を越えると荒々しい太平洋へと抜け、遠くハワイへ、そして南米へとつながる。

広島アートプロジェクト2008は、この中州の一つである吉島地区の中州を舞台としている。山から流れてくる淡水と、瀬戸内海特有の潮汐流により海から押し寄せてくる海水がせめぎ合う場——汽水域が我々の表現のフィールドなのである。山と海、ローカルとグローバル、戦争と平和、これらが対峙しせめぎ合い共存する場を、汽水域をメタファーに現出させたいと考えた。

企画「汽水域」の構造として地域的視点の企画と国際的視点の企画を対比させた。地域的展覧会は「旧中2」と題し吉島地区の中州の多様な場所で展開し、国際的展覧会では「CAMP ヒロシマ」と題して、海外からの作家を多く招待し、被爆の痕跡をとどめる旧日本銀行広島支店を会場とした。加えてCAMPの企画はベルリンと広島を二都市での姉妹展の形をとった。なぜならば前述のように広島は過去に多くの移民を送り出し、ベルリンは現在多くの移民を受け入れている都市である。この二つの都市でアーティストたちは何を考えどう表現するのか、そしてどのような差異が生まれるのかが企画の狙いとするところである。前哨戦「CAMP ベルリン」は2008年2月に旧東ドイツの電車の整備工場を会場に開催した。都市の隙間や遊休施設を創造の場とすることは海外においても一貫した我々の興味である。各企画の詳細はそれぞれの企画担当者に譲るが、この二つの視点のせめぎ合いが「汽水域」を表象するのではないかと考えたのである。

CAMPとはContemporary Art Migration Projectの頭文字を取ったものである。Migrationとは人の移住、移動、鳥の渡りや魚の回遊を意味する。またコンピューターにおけるプログラムやデータの環境が異なるシステムへの移行、変換作業もマイグレーションと表現されている。

戦火を逃れて他国に移住を強いられた者、分断された別の国家システムに移行してきた者、展覧会中に実際にヨットで大西洋を航海している者、性を変換移行する者、婚姻という遺伝子の移住交換儀式を試みる者。参加した作家たちはまさに多様な背景を抱えて現実的にも象徴的にも移住、移動を表現していると言える。

ベルリン側の作家選考ではベルリン・ヴァイセンゼー美術大学のエラン・シャーフ教授（当時）に協力をいただいた。海外へ出向いての展覧会では、ベルリン在住もしくは留学中の広島市立大学芸術学部現代表現領域のOB、OGたちの努力なくしては立ち行かなかっただろう。将来を期待される勇士たちである。スカイプによる会議の回数は数えきれない。通信技術の発達がこのMigrationをテーマにする二都市間での姉妹展の実現を可能にしたとも言える。

「CAMP ヒロシマ」では、ベルリン・ヴァイセンゼー美術大学をはじめ、フランス・リヨン国立高等美術学校、韓国梨花女子大学校芸術学部にも多大なる応援をいただいた。この場をかりて感謝の意を伝えたい。

補足：特別展示として、アートセンターとしての利用を提案している旧中工場の縮尺 8 分の 1 の大型模型を作った。施設の芸術活動による再利用をシミュレーションする企画と言える。深さ 40 m の巨大な焼却ピットの空間には映像が投影され、映像作品の展示空間としての可能性を示唆した。同時に映像でのシミュレーションではあったが、広島に送られてくる膨大な折り鶴の保存対策としての創造的展示手法の提案ともなった。プラットホームは精巧なギャラリー空間となり、極小の展覧会を広島市立大学芸術学部現代表現領域のOB、OG、学生たちに企画してもらった。この旧中工場の焼却ピットとプラットホームの大型模型を《peace scope》と題した。漆黒の大空間を死蔵している焼却ピットを逆説的に平和を覗き見するための器械と捉えたのである。そしてプラットホームでの極小展覧会のテーマは、もちろん「愛」である。

本稿は、『広島アートプロジェクト 2008「汽水域」』（広島アートプロジェクト、2009年）に掲載した「ディレクターズ・メッセージ 二つの流れが交錯する場」を再録したものである。



「旧中2」の会場となった吉島地区を宇品方面から眺める



「CAMP ヒロシマ」の会場となった旧日本銀行広島支店



ベルリンからの参加作家を交えたトークイベントの風景